

昭和二十四年新制大学の発足にともない、文教育学部に中国文学科が新設され、四十一年には大学院の設置にともない、中国文学中国語学の二講座となつた。この間、学生定員数もしだいに増加し、昭和五十七年三月に至つて、本学を卒業・修了した学生数は、ようやく二一八名に達した。

学会創設について、事はあくまでも慎重に運ばれた。すなわちまず全卒業・修了生に書信を送つて、学会設立につき賛否の意見を聴くことから始めたところ、五五パーセントの返信を受け、実にその七〇パーセントが賛成であつた。次いで再び全卒業・修了生にその由を告げ、併せて設立についての会則案を送り、了承のうえ入会の意志表示を受けることによつて、現在の会員一一二名が決定した。

かくて昭和五十六年五月廿三日、発会式をかねての第一回例会をもつて、学会は活動を開始した。

学会運営並びに機関誌の刊行には、その内面的充実と経済面の保証との両面からする、より慎重な検討を要すること、いうまでもない。幸い後者については、ほぼ発足と同時に特別基金となしうる寄付の申し出をうけ、またそのことを踏まえての将来方針の慎重な検討の結果、会長・委員長名を以て全会員にさらなる寄付を願い出て、経済面での一応の見通しが可能となつた。以上が本創刊号発行の運びに至つた経緯である。

学会誌として発足した以上、全国諸大学におけるそれに伍して、研究水準に於て少くとも遜色ないものでなければならぬ。他と比べて比較的少数の会員で維持する経済面の困難があればあるだけ、内容の充実にこそ一層、真剣でありたい。

全国の研究者諸氏の愛情をこめての批正の、多く寄せられることを切望して、発刊の辞とする。

昭和五十七年四月二十九日

お茶の水女子大学中国文学会

会長 近藤 光男